

KYOWA 協和プレス工業 株式会社

きょうわぷれすこうぎょう



子連れ出勤、男性育休など子育て世代の悩みに きめ細やかに対応し、環境改善に取り組む



これまでの弊社は出産や育児をきっかけに離職する女性が多く、優秀な社員が継続して働けない社内環境であることに危機感を募らせていました。また近年増えている子育て世代の社員をサポートする必要性を強く感じていた矢先、「わかやま結婚・子育て応援企業同盟」への参加を機に、育休取得意識向上に着手しました。まず中間管理職に向けた育休

取得の意識付けを行い、後輩社員が取得しやすい雰囲気づくりに努めました。直近の数年で女性における育休実績は4名。令和3年5月には、初めて男性社員が育休取得しました。

制度化は行っておりませんが、令和元年には女性社員の子連れ出勤を認めました。保育園が休園になる数日間は、会社に

昭和38年12月創立。業務用空調機器や工作機械、情報通信機器で使用される金属プレス部品及び精密板金部品を製造しています。「ものづくりは、人づくり」をモットーに、高品質な「ものづくり」で社会貢献を目指しています。



お子さんを連れてきてもらい、目の届く範囲で仕事ができるよう工夫しました。中小企業の良さは、問題が発生すれば柔軟に対応できるところにあります。個人の悩みに対しても、その都度、親身になって受け止めています。そうすると離職率も下がるのではないかと考えています。

働き方改革に関する取組として、令和2年4月より各部署でジョブローテーションを行い、作業の平準化に努めています。その人しかできない仕事が集中し負荷がかかると残業に偏りが生まれます。家族に急なトラブルが起ららないとも限りませんし、リフレッシュしたい時もある。そんな時に気軽に有給休暇を取得できるよう環境づくりに取り組んでいます。もちろん部署によって仕事内容も進め方も異なるので、そこは柔軟に考えています。

「社員一人一人が改善意識を持って行動することが会社をよくする」という長年にわたる弊社社長の教育が浸透し、社員は自発的に行動してくれています。そんな皆さんの頑張りに報いるため、社内環境を整えるのが私たちの役割だと思っています。

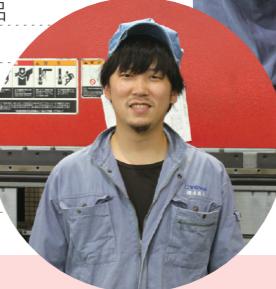
現場の声

育休制度を利用した 横出勇人さん(製造部・部品課)

「妻をサポートできて子供たちと過ごせたのは育休のおかげです」

本来なら帰り出産の予定でしたが、コロナ禍の影響で移動が困難なため、3人目の子供はこちらでの出産になりました。そういう状況で出産後の妻が家事・育児を1人で担うのは厳しく、親からのサポートも望めなかったのが、育児休業を申請した理由です。制度については把握していたので、まず取得半年前に上司に相談しました。その後、引き継ぎについて話し合い、スタッフに仕事を教えてました。育休は2ヵ月半いただきましたが、問題なく復

帰できたのは、会社の皆さんとの理解や協力、周囲の温かい雰囲気があってこそだと思っていました。僕たち夫婦は共働きなので普段から家事は分担していましたが、平日に帰宅が遅い僕は、育児といってもお風呂に入れるくらい。家族みんなで貴重な時間を過ごすことができました。育休を取得したおかげです。



解消したい課題

優秀な人材がライフステージの変化により離職

- 育児休業取得についての取組に注力していなかったため、結婚・出産・育児を理由に退職する女性社員が多い。
- オシリーワンの業務を担う社員に仕事量が偏り、残業過多を招いた。



子連れ出勤制度について導入成功のアイディア

●子供が過ごしやすいように会議室に保育マットを敷設。仕事用デスクも準備し、目の届く範囲で子供を遊ばせながら、母親も同じ部屋で仕事を行った。

課題への取組

会社への定着率アップに向け、職場環境を改善

- 管理職に向けた育児休業取得の意識付け。
- 子連れ出勤の導入。
- 定期的にジョブローテーションを実施し、業務を平準化。
- 残業の偏りをなくすため、全社員の残業時間を月2度集計し情報共有。

導入の成果

職場環境が少しずつ改善され、働きやすい職場と感じている社員が増加

- 社員の定着率が向上した。
- 育児休業を取得する女性社員が増え、令和3年には男性社員が初めて取得。後輩への育休取得意識向上への一助となった。
- 出産・育児について積極的に上司に相談する女性社員が増え、キャリアアップの意識も高まった。

